

<指導事例4> 国語総合「和歌の修辞技法を用いて短歌を創作する事例」

【学習活動の概要】

1 単元名 「三夕の和歌」をもとに着想した短歌を詠もう

2 単元の目標

- ・優れた表現に接してその条件を考えたり，書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにしようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・優れた表現に接してその条件を考えたり，書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。
(書く能力)
- ・和歌の修辞技法や，語句の使い方について理解する。
(知識・理解)

3 取り上げる言語活動と教材

- (1) 言語活動 情景や心情の描写を取り入れて，詩歌をつくること。
- (2) 教材 『新古今和歌集（三夕の和歌）』（寂連法師，西行法師，藤原定家）

4 単元の具体的な評価規準【P.47資料1】

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・内容や表現の優れた文章に接して，その優れた点を分析し，表現に役立てようとしている。 ・幅広く文章を読んで，文章を書くのに必要なものの見方，感じ方，考え方を豊かにしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や表現の優れた文章に接して，その優れた点を分析し，表現に役立てている。 ・幅広く文章を読んで，文章を書くのに必要なものの見方，感じ方，考え方を豊かにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の修辞技法や，語句の使い方について理解している。

5 単元の指導計画

(1) 学習活動

「三夕の和歌」の読解を通して，「三夕の和歌」に用いられている修辞技法を用いて，短歌を創作する。

(2) 言語活動に関する指導上の留意点

古歌の季節感や情緒に学び，修辞技法を生かして，自らの感じ方を言語化できるようにする。

次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点

<p>第1次</p>	<p>・マインド・マップを用い、「秋」のイメージをふくらませるとともに、共通概念としての「秋」のイメージをもつ。</p>	<p>・マインドマップは細かいルールに縛られず、あくまでブレインストーミングの手段として利用させる。</p>
<p>【評価規準】</p> <p>・韻文や散文，または歌詞などを読んで，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにしようとしている。（関心・意欲・態度）</p> <p>【評価方法】</p> <p>「記述の点検」（マインドマップ）</p>		
<p>第2次</p>	<p>・「三夕の和歌」の解釈を通して，修辞技法（レトリック）を把握する。</p> <p>・「三夕の和歌」の解釈を通して，「～の秋の夕暮れ」となるような第4句の6音を探す。</p>	<p>・読解の段階で修辞技法の指摘にとどまらず，使用効果（使用意図）を考えさせるようにする。</p> <p>・マインドマップで広げた連想，またはその連想法を使用するよう助言する。</p>
<p>【評価規準】</p> <p>・和歌の修辞技法や語句の用い方について理解している。（知識・理解）</p> <p>【評価方法】</p> <p>「記述の確認」【P.48資料2】とノート</p>		
<p>第3次</p>	<p>・「三夕の和歌」の修辞技法（レトリック）を用いて短歌を詠む。</p> <p>・第5句は指導者が設定したものから選んで詠む。</p>	<p>・第5句は第1次でふくらませた「秋」のイメージに合うものを提示する。</p>
<p>【評価規準】</p> <p>・「三夕の和歌」の表現方法や技法を分析して，短歌の創作に役立てている。（書く能力）</p> <p>【評価方法】</p> <p>「記述の確認」【P.49資料3】</p>		
<p>第4次</p>	<p>・相互評価，自己評価を行う。</p>	<p>・相互評価の際は，修辞技法の使用意図も含めて発表させる。</p>
<p>【評価規準】</p> <p>・幅広く文章を読んで，文章を書くのに必要なものの見方，感じ方，考え方を豊かにしている。（書く能力）</p> <p>【評価の方法】</p>		

6 第3次の指導計画（1時限中1時限）

学習段階	学 習 内 容	学 習 活 動	指導の留意点と評価の実際
導入	本次の目標を理解する。	①本次の目標と言語活動について確認する。	①・前時に膨らませたイメージを創作に生かすよう助言する。
展開	「三夕の和歌」の修辞技法やレトリックを用いて短歌を詠む。	②短歌を詠むにあたっての条件の確認をする。 ③【P. 50資料 4】の「結句のリスト」の中から、自分が使用する結句を選び、そこから連想されるイメージを書き出す。 ④連想したイメージをもとにして、短歌を詠む。	②・短歌を詠むにあたって、以下の条件を提示する。 a 結句は必ず、【P. 50資料 4】の「結句のリスト」から選ぶこと。 b 「三夕の和歌」の解釈で学習した修辞技法を必ず一つ以上使用すること。 ③・マインドマップで広げた連想、またはその連想法を使用するよう助言する。 ④・「三夕の和歌」に使用されていた修辞技法とその効果を板書するなどして、再確認させる。 ・自分が使用する（した）修辞技法とその使用意図を【P. 49資料 3】に書き込ませる。
終結	第4次の予告をする。	⑤第4次に相互評価、自己評価を行うことを確認する。 ⑥【P. 49資料 3】を提出する。	⑥【P. 49資料 3】を提出させる。 ★【P. 49資料 3】の「記述の

確認」に基づいて評価する。

7 指導事項と学習指導要領の関連

本事例の指導事項は、次のとおりである。

エ 優れた表現に接してその条件を考えたり，書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。
「国語総合」内容「B書くこと」の(1)

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである（主に下線部）。

ア 情景や心情の描写を取り入れて，詩歌をつくったり随筆を書いたりすること。
「国語総合」内容「B書くこと」の(2)

【言語活動の設定理由】

詩歌を創作することをはじめ，文章を書く活動は小学校段階から行われ，指導もされている。しかし，生徒たちの中には自分の視点を表すことに苦手意識をもつ生徒がいる。そこで，「三夕の和歌」に使用されている修辞技法をまねて短歌を詠むことによって「書く能力」が培われると考え，「情景や心情の描写を取り入れて，詩歌をつくったり随筆を書いたりする」言語活動を設定した。

【資料1】「具体的な評価規準の設定例（書く能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「書く能力」に関する 評価規準の設定例(9項目)	重 点 化	言語活動における具体的な評価規準 の設定例
ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	a ① 相手や目的に応じて題材を選び、集めた材料の中から必要なものを取捨選択している。		・自己の生活や経験を振り返り、表現したい題材を選んでいる。
	a ② 相手や目的に応じて適切な文章の形態や文体、語句を選んで書いている。		・自己の経験や思考の中から、表現したい内容を整理し、語句を選んで書いている。
イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめていること。	b ① 自らの考えを説得力のある文章で表現するために、思考を整理し、論理の構成や展開を工夫して書いている。		・該当なし
	b ② 客観性のある資料を根拠として、論理的な展開の文章を書き、自分の考えをまとめている。		・該当なし
ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	c ① 事実と意見、中心的な部分と付加的な部分との関係を明らかにするなどして、事柄を具体的に説明したり、手順や理由などを論理的に説明したりしている。		・該当なし
	c ② 表現技法等の表現の仕方を工夫するなどして、物事の様子や心情等を描写している。		・表現技法を工夫して、情景や人物の心情などを描写している。
エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立っていると同時に、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d ① 内容や表現の優れた文章に接して、その優れた点を分析し、表現に役立っている。	○	・「三夕の歌」の表現方法や技法を分析して、短歌の創作に役立っている。
	d ② 文章の内容や表現などについて、自己評価や相互評価することで、表現に役立っている。		・詠んだ短歌を自己評価や相互評価することで、表現に役立っている。
	d ③ 幅広く文章を読んで、文章を書くのに必要なものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	○	・韻文や散文、または歌詞などを読んで、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。

【資料2】 「三夕の歌」をもとに着想した短歌を書こう ワークシート ②

()組 ()番 氏名 ()

☆ 学習の振り返り

① 「秋の夕暮れ」はどのような心情を起こさせるか。

--

② 「秋の夕暮れ」に対して、「まき立つ山」、「鳴立つ沢」、「浦の苫屋」はそれぞれどのような関係にあたるか。

まき立つ山	
鳴立つ沢	
浦の苫屋	

1 さびしさはその色としもなかりけり **まき立つ山** の秋の夕暮れ 寂連法師

(1) 「まき立つ山」に代わる情景を考えてみよう。

----- -----

(2) 「まき立つ山」に代わる六文字の情景を () に入れよう。

さびしさはその色としもなかりけり () の秋の夕暮れ

2 心なき身にもあはれは知られけり **鳴立つ沢** の秋の夕暮れ 西行法師

(1) 「鳴立つ沢」に代わる情景を考えてみよう。

----- -----

(2) 「鳴立つ沢」に代わる六文字の情景を () に入れよう。

心なき身にもあはれは知られけり () の秋の夕暮れ

3 見渡せば花も紅葉もなかりけり **浦の苫屋** の秋の夕暮れ 藤原定家

(1) 「浦の苫屋」に代わる情景を考えてみよう。

----- -----

(2) 「浦の苫屋」に代わる六文字の情景を () に入れよう。

見渡せば花も紅葉もなかりけり () の秋の夕暮れ

※この資料は掲載の都合上横書きになっているが、もとは縦書きである。

【資料3】「三夕の歌」をもとに着想した短歌を書こう ワークシート③

() 組 () 番 氏名 ()

1 あなたが使用する第五句はどれですか。

第五句	そこから想像(連想)されるイメージ

2 作品を書いてみよう

--

3 自分が使用した修辞技法(レトリック)は何ですか。

修辞技法(レトリック)	使用した意図
①	
②	
③	

※この資料は掲載の都合上横書きになっているが、もとは縦書きである。

「三つの歌」をもとに着想した短歌を書こう 結句のリスト

【例 4】

結句	例歌	出典	詠者
「秋は来にけり」	このまよりもりくる月のかげみれば 心づくしの秋は来にけり 神なびのみむろの山のくすかりづら うら吹きかへす秋は来にけり きのふだにとはんと思ひし津の國の 生田の杜の秋は来にけり ふか草の露のよすがを契りにて 里をばかかれず秋は来にけり あはれ又 いかにも忍ばん袖の露 野原の風に秋は来にけり みしぶつき植ゑし山田にひたはへて 又袖ぬらす秋は来にけり	古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集	よみ人知らず 中納言家持 藤原家隆朝臣 摂政太政大臣 右衛門督通具 皇太后宮大夫俊成
「秋の夜の月」	白雲にはねうちかはしとぶかりの かずさへみゆるあきのよの月 大あらしの杜の木のまをもちかねて 人だのめなる秋のよの月 あやなくもくもらぬ宵をいとふ哉 忍ぶの里の秋のよの月 ふけゆかば煙もあらじ 塩がまのうらみなはてそ 秋の夜の月 うき身には詠むるかひもなかりけり 心にくもる秋の夜の月 詠めつゝ おもふにぬるゝたもと哉 いく夜かはみん 秋の夜の月 深くるまでながむればこそ悲しけれ 思ひもいれじ 秋の夜の月	古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集	よみ人知らず 皇太后宮大夫俊成女 橘為仲朝臣 前大僧正慈圓 前大僧正慈圓 殷富門院大輔 式子内親王
「もみぢなりけり」	山がはに風のかけたるしがらみは ながれもあへぬもみぢなりけり	古今和歌集	はるみちのつらき
「秋はいにけり」	みちしらばたづねもゆかん もみぢばをぬさとたむけて秋はいにけり	古今和歌集	みつね
「秋の夕暮れ」	詠むれば衣で涼し 久堅の 天の川原の秋の夕暮れ をぐら山 薔の野べの花すゝき ほのかにみゆる秋の夕暮 おしなべて思ひしことの数々に 猶色ませる秋の夕暮 物おもはでかゝる露やは袖におく 詠めてけりな 秋の夕暮 たへてやは 思ひありともいかゞせん むぐらの宿の秋の夕暮れ 我ならぬ人もあはれやまさらん 鹿鳴く山の秋の夕暮 村雨の露もまだひぬ嶺の葉に 霧立ちのぼる秋の夕暮れ	新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集	式子内親王 よみ人知らず 摂津太政大臣 摂津太政大臣 藤原雅経 土御門内大臣 寂蓮法師
「松虫の声」	虫のねも長き夜あかぬ古郷に 猶思ひそふ松虫の声 跡もなき庭のあさぢにむすほほれ 露のそこなる松むしの声 ねざめする袖さへさむく 秋の夜の風吹くなり 松虫の声	新古今和歌集 新古今和歌集 新古今和歌集	家隆朝臣 式子内親王 大江嘉言
「秋ぞ暮れぬる」	時鳥鳴く五月雨に植ゑし田を 鷹がねさむみ 秋ぞ暮れぬる 夏草の かりそめにとてこし宿の 難波の浦に秋ぞ暮れぬる	新古今和歌集 新古今和歌集	菅滋為政朝臣 能因法師

注) 例歌は新日本古典文学大系より引用

【資料5】 「三夕の歌」をもとに着想した短歌を書こう ワークシート ④

() 組 () 番 氏名 ()

☆ 相互評価表

() さんの作品

使用されている修辞技法は です。

使用されている第五句は です。

※ 該当の記号に○をつける。 A : よい B : ふつう C : よくない

評価 規 準	修 辞	① 作者は修辞技法を 自覚的に 使用しているか。	A	B	C
	技	② その修辞技法は 適切に 使われているか。	A	B	C
	法	③ その修辞技法は 効果的に 使われているか。	A	B	C
	第	④ 第五句は 適切に (季節感覚や時間など)使われているか。	A	B	C
	五 句	⑤ 第五句のイメージは作品の内容と合っているか。	A	B	C

点数換算 A : 5点 B : 3点 C : 1点

/ 25

アドバイスや感想

【資料6】 「三夕の歌」をもとに着想した短歌を書こう ワークシート ⑤

() 組 () 番 氏名 ()

☆ 自己評価表

※ 該当の記号に○をつける。 A：よい B：ふつう C：よくない

評価 規 準	修 辞 技 法	① 修辞技法を 自覚的に 使うことができたか。	A	B	C
		② 修辞技法を 意図をもって 使うことができたか。	A	B	C
		② 修辞技法を 適切に 使うことができたか。	A	B	C
		③ 修辞技法を 効果的に 使うことができたか。	A	B	C
	第 五 句	④ 第五句は 適切に (季節感覚や時間など)使うことができたか。	A	B	C
		⑤ 第五句のイメージは作品の内容と合っているか。	A	B	C
点数換算 A：5点 B：3点 C：1点					
					/ 30

2 自己評価や相互評価を終えて、自分の作品の改善すべき点はどこにあるか。